




活動プログラム	No.18 稲刈り体験		
期待される効果	 環境学習	 食育	 地域文化
プログラム概要	日常生活ではスーパーなどに並んでいる農作物を、実際に農地での稲刈り体験を通じ、自らの手で収穫することで、自然を相手にした仕事の苦労や楽しさ、また食への感謝の気持ちを感じることができます。		
対象	なし	人数	40人（1クラス）
時期	10月上旬からから10月中旬	場所	美方高原体験農園場
金額	体験プログラム料金表参照	大人の人数	1クラス40人に2名以上

準備物	団体ごと	救急セット、行動食、虫よけスプレー
	服装 個人装備	リュック、カッパ（上下セパレート）、タオル、水筒、帽子 長袖、長ズボン、軍手
美方高原で レンタル可能な物		カマ、長靴、荷物用ビニールシート

活動のタイムスケジュール（例）

時間	運営	安全上のポイント
8:30	自然の家玄関前集合 出発	持ち物や服装の確認、体調チェック
9:00	講師紹介 作業開始 1クラスを2グループにわけ交替で作業する カマで刈り取るグループは、カマを受け取り、稲刈り作業。もうひとグループは、刈り取った稲を、コンバインに運び脱穀作業を行う。 待機グループは自然観察、昆虫観察	道路は右側通行をし、一列で歩く。 田んぼの畔は滑りやすいため慎重に移動 カマの取り扱いに十分注意する 水分補給、行動食
11:30	終了	

補足ポイント

- 事前に農業（米作り）について予習しておき質問事項をまとめておくと効果的です。
- 引率者は下見の際に農地を確認しておいてください。
- 虫刺され対策で虫よけスプレーなどを事前に使い予防します。
- 緊急時は施設の車でピックアップすることもできます。
- 訪ねたいことを班ごとにまとめ、分かりやすくしておくと、効果的です。
- 収穫作物（食べ物）を扱うことの意識を高め、落ちた稲穂を踏むことがないように事前指導をお願いします。
- 稲刈り体験参加者1人に対し後日0.7合の精米したお米を送付させていただきます。
- 稲の生育や気温により田植え時期が若干変更する場合があります。

活動 プログラム	No.18	稲刈り体験
-------------	-------	-------

予期されるリスク	リスクに対する対応
カマの取り扱い	両手に軍手着用。他者にカマを渡す場合は、手渡しはしない。地面に置きそれを受け取る。
田んぼ畔（あぜ）での転倒	田んぼの畔は滑りやすく転倒リスクが高いため、走らない。
低体温症	防寒着やカップを準備するよう伝え、適度に厚着をさせる。気温が低い場合は、温かい物を準備し休憩を短めにし、体の冷えを防ぐ。
ブヨ、アブ対策	虫よけスプレーなどで事前に対策し、必ず長袖長ズボンで作業する。
熱中症、脱水症状	塩分や十分な水分を準備するよう伝える。服装による調節を促し、日陰での休憩をとらせる。肌を露出させず、日焼け止めの使用を促す。
ハチ、ヘビとの遭遇	ハチやヘビと遭遇した場合の対応を伝えておく。また村までのルート以外には入らせない。車道の付近のハチの巣の駆除。
天候不良	当日の天気予報を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは中止する。
その他のケガ、体調不良	救急バックを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
農業担当者への依頼確認
農作物の生育状態確認
参加費、米の送付案内が出来ているか。
引率者が事前に田んぼの下見が出来ているか
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確であり、共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。また数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）
田んぼは滑りやすいので絶対に走らない。
観察タイム時に、動植物に触れる場合は必ず軍手をつける。
衣服での体温調整を行うこと。
ハチ、ヘビと遭遇した場合は、刺激せず距離をとること。
カマは、手渡しは行わず交替のタイミングで地面においてから次の作業者が受け取る。次の作業者が拾い受けるのを確認してからその場をはなれること。
稲刈り作業以外でカマを使用しない。
脱穀作業時、機械は農家の方が操作する。運んできた稲は、農家の方に対し一列で並び手渡しする。それ以外では、脱穀機に近寄らない。